

の最もよく遊ぶ(自身の子どもが最もよく遊んでいる)公園に対する8評価(「広さ」、「明るさ」、「静けさ」、「公園のきれいさ」、「トイレのきれいさ」、「遊びたい遊具の有無」、「安心さ」、「公園にいる友達の多さ」)のうち「広さ」、「明るさ」、「遊びたい遊具の有無」の3評価を用いる。そして各公園の空間構成と評価の相関分析を行い、相関性を明らかにする。

3 調査結果

空間構成と公園評価の相関分析によって算出した相関係数を Tab.2 に示す。

Tab.2 空間構成と公園評価の相関係数

空間構成		公園評価					
		広さ		明るさ		遊びたい遊具の有無	
		広い	狭い	明るい	暗い	ある	ない
面積	0.790	-0.435	0.324	-0.035	0.237	0.033	
細長比	-0.083	0.255	0.000	0.560	-0.069	0.139	
出入口数	0.567	-0.333	0.102	0.150	0.188	0.118	
前面道路本数	0.492	-0.346	0.062	0.235	0.166	0.273	
遊具の設置数	0.260	0.011	0.221	0.097	0.417	0.001	
遊具の種類	0.323	0.024	0.256	0.230	0.492	-0.035	

3.1 広さの評価との相関性

「広さ」の分析結果から相関性がある傾向がみられたのは「面積」と「出入口数」、「前面道路本数」、「遊具の種類」であった。特に「面積」は公園評価の「広い」との相関係数が0.790と正の相関が強く、「狭い」との相関係数が-0.435と負の相関がある傾向がみられる(Tab.2)。一方で細長比は「広い」との相関係数が-0.083、「狭い」との相関係数が0.255と相関性が低い傾向がある。このことから、「広さ」の評価は公園の形状によらず面積の大きさに大きく影響すると考えられる。

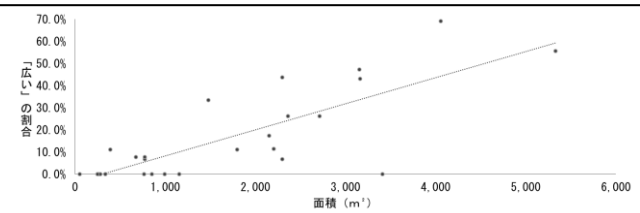


Fig.1 「広い」の割合と「面積」の相関図

3.2 明るさの評価との相関性

「明るさ」との相関性がみられた項目として、「細長比」が挙げられる。公園評価の「明るい」との相関係数はほぼ0で相関性はないが、「暗い」との相関係数は0.560であり正の相関がある傾向にある(Tab.2)。「細長比」が1.0~2.0の公園では「暗い」の評価にバラつきがみられるが、「細長比」が極端に大きい公園は「暗い」の評価が高いため、「細長比」と「暗さ」に相関性がある傾向がみられたと推測できる(Fig.2, Tab.1)。

3.3 遊びたい遊具の有無との相関性

「遊びたい遊具の有無」との相関性がみられたのは

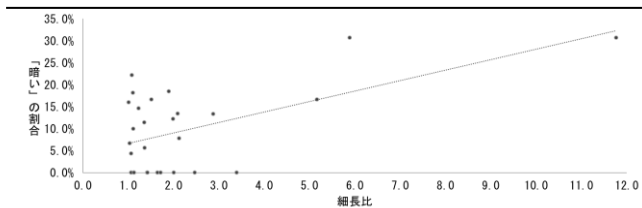


Fig.2 「暗い」の割合と「細長比」の相関図

「遊具の設置数」と「遊具の種類」である。公園評価の「遊びたい遊具がある」との相関をみると、「遊具の設置数」との相関係数が0.417、「遊具の種類」との相関係数が0.492であり、どちらも正の相関がある傾向がみられる(Tab.2)。相関係数が小さい理由として、同じ設置数や種類の公園でも「姥ヶ森公園」は「遊びたい遊具がある」の割合が41.3%に対して、「東小田公園」は26.2%と低い評価になっているなど、同じような条件でも公園によって評価にバラつきがあったためだと考えられる(Fig.3, Tab.1)。

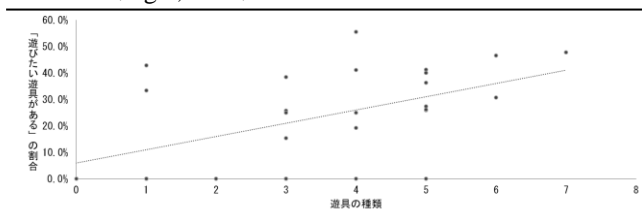


Fig.3 「遊びたい遊具がある」の割合と「遊具の種類」の相関図

4 まとめ

公園の空間構成と地域住民の公園に対する評価の相関分析から、①面積が大きい公園は形状に関わらず「広い」という評価が高い②細長比が大きい公園は「暗い」という評価が高い③遊具の種類が多い公園は「遊びたい遊具がある」という評価が高い、といった傾向がみられた。しかし、「明るさ」と「遊びたい遊具の有無」に関しては相関係数が0.560と0.492であったため、大きな相関性があるとは言いきれない結果となった。今後の展望として、公園施設の配置や周辺環境との相関分析、また学年別や世代別による相関分析を行うことで、より詳細な相関性が明らかになると考えられる。

注釈

[注1] 国土交通省都市局公園緑地・景観課：都市公園の面積・箇所数の推移，都市公園データベース，2016.3

[注2] 国土交通省都市局公園緑地・景観課：公園施設長寿命化計画策定指針(案)，2012.4

[注3] 川崎市，日本大学理工学部理工学研究所：川崎市川崎区田島支所管内における街区公園等の新たなコミュニティの創出及び活性化に向けた基礎調査，2016.3